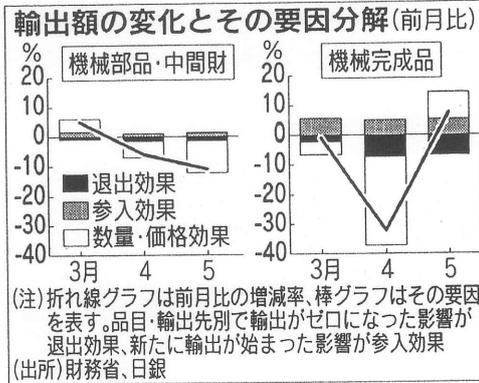


日本経済新聞朝刊

2011年7月28日付「ゼミナール」

※他のサイトやソフト等の電子媒体への  
転載を禁じます。



東日本大震災では、工場の被災や輸送インフラの寸断などの影響がサプライチェーン（供給網）全体に及んだ。生産ネット

## ゼミナール

ワークが広域に広がっており、国内外の経済にとつて極めて重要であることを再認識させるものとなった。

減だった。この下落のかなりの部分は、過去1年間に起きた1割程度の水準の円高・ドル安などで説明できる。6月には前年同月の輸出額を回復している。品目別にはかなりの違いがある。自動車を含む機械完成品は4月に前月比で32%減と顕著に落ち込んだ。ただ5月にはだいぶ戻ってきている。一方、機械部品・中間財を見ると、品目別・輸出先別で輸出がゼロとなっ

## 復興への経済戦略 ⑧

### 部品輸出

### 減少小さく、生産網の安定さ示す

過去の貿易データに基づけば、生産ネットワーク内の部品・中間財の貿易は、平時や経済危機時を問わず、際立った安定性や丈夫さを示してきた。今回も生産ネットワークは脆弱さを露呈したというより、むしろ強い回復力を証明した。一度、生産ネットワークが形

成されると企業はその維持のために多大な努力を払う。例えば、自動車や電子機器に搭載するマイコンを生産していたルネサスエレクトロニクス（那珂工場（茨城県ひたちなか市）は震災によって工場設備に大きな被害を受けた。しかし、自動車会社などから復旧作業に最大で1日

約2500人が駆けつけ、6月初旬には生産を再開した。日本の輸出データを物価変動を除いて月別に見ると、3年前の世界金融危機の時などは大きく異なり、全製品の輸出額の下落は小幅にとどまった。3月は前年同月比で横ばいになり、4月は同10%減、5月は同8%

たことによる下落幅（退出効果）は極めて小さい。日本から海外への部品供給が月単位で途絶してしまつたということはほとんどなかったといえる。生産ネットワークの安定性を示すデータとして注目される。しかし生産ネットワークが安定だということは一度、空洞化が進むと元に戻らなくなる危険性があるということでもある。（慶応義塾大学教授 木村福成）